

## 認知症の予防について (2)

わが国は、世界に類を見ない超高齢化社会・65歳以上の人口比率27.3% (2016年)、38.4% (2065年予測)・になりました。高齢者の6~7人に1人とされる認知症の発症に対し、誰もが身近な問題と感じているのではないのでしょうか。認知症は、アルツハイマー型、脳血管型、レビー小体型、その他があり、約60%を占めるアルツハイマー型では、アミロイドβの蓄積が言われていますが、解明されていないことの方が多いのです。ですから、アレルギー的見方やこれまでの私たちの診療方法と経験により、可能な限り予防や治療に取り組んでいきたいと思えます。このコラムのNo.10に脳のアレルギー、No.34に認知症予防についても、以前にお伝えしましたが、再び取り上げたいと思えます。併せてご覧くださると嬉しいです。

最近、50歳代、60歳代の方々が、認知症を心配されて受診されることが多くなりました。単に老化による物忘れもありますが、明らかに前頭葉の異常や海馬の異常がみられる場合があります。もちろん、MRIなどでの検査ではなく、ORTにより調べているだけなのですが。

その異常が、一体、何によるものか、と調べていきますと、アレルギー、カンジダ、重金属蓄積、化学物質汚染、薬剤、非結核性抗酸菌、電磁場過敏、化学物質過敏、などが原因の一つと、わかってくるのです。

もちろん、高脂血症、糖尿病、高血圧などがベースにありますと、血管や循環の異常が起こりやすく、栄養や酸素の欠乏に弱い脳細胞には、ダメージが起こりやすくなります。ですから、それらの基礎疾患は、運動や、食事、薬剤などで、しっかりコントロールをする必要があります。そのうえで、脳の異常の原因対策に取り組みます。これらは様々な組み合わせで起こっています。すぐに対策が取れるものもありますが、環境や他者が関わっている場合は、非常に困難になります。

だからと言って治療や予防をあきらめることはできません。何とか、ご自分に合う対症療法を行います。抗アレルギー剤、抗真菌対策、キレート剤、解毒剤、漢方薬、ドクダミやオリーブ葉などのハーブ、ビタミン剤、認知症の薬などです。超希釈尿療法は、この場合も、ぜひ試していただきたい治療法の一つですが、様々な理由で、これまで効果が判定できるほど、治療に使った方はいません。イチョウの葉も以前から認知能力、記憶力を高めると言われ、よく使われています。質の良いイチョウの葉が見つからなくなって、積極的に勧めすることを中止した時期が長かったのですが、最近、良さそうなものを見つめました。合う方には、勧めすることがあります。イチョウは銀杏の種皮を取り除くとき、よくかぶれますように、葉にも同様の成分(ギンコール)があり、アレルギーを起こしやすいのです。ギンコールを充分に取り除いていないものは、湿疹や腹痛が出たり、気分が悪くなったりします。また、摂取量も、ごくわずかで良い方やその何倍も必要な方がいます。概ね、説明書に書いてある量は、多すぎるようです。イチョウの葉は、健康食品扱いですが、適量の幅が狭く、個人差が大きく、多いと有害な量になります。お使いになりたい方は、ぜひ、ご相談ください。

また、ほとんどの病気の背景には、メンタルの問題が潜んでいることも、見逃してはいけないことです。精神科、心療内科専門医の治療を受けなければならないこともあります。そこまでではない場合、私共で、できる範囲のサポートは、させていただきたいと思っています。お気軽に、ご相談ください。